

甲状腺検査 公開報告・交流会

2019年 5月18日(土) 13:30~15:40 (開場13:00~)

東北教区センター「エマオ」(仙台市青葉区錦町1-13-6)



甲状腺エコー(超音波) 検査の様子…いずみ提供

参加費無料

予約不要



第一部 検査報告会

放射能問題支援対策室いずみによる、2018年度甲状腺検査結果報告など

ゲスト: 「NPO法人 3・11甲状腺がん子ども基金」 脇 事務局長による活動報告など

山崎知行 医師(上岩出診療所)、寺澤政彦 医師(てらさわ小児科)によるコメント

第二部 意見交換・交流会

宮城県内各地から、活動紹介・報告など

ゲストプロフィール

脇 ゆうりか さん

「NPO法人 3・11 甲状腺がん子ども基金」(以降、基金と略) 事務局長

基金は2016年12月1日から療養費給付事業「手のひらサポート」を開始。原発事故後、甲状腺がんの手術を受けたり、穿刺吸引細胞診で甲状腺がんと診断された、事故当時18才以下の方への経済支援、また、当該者や家族への情報提供やメンタル面でのサポートを実施。これまで141名への療養費支援を行っている(2019年2月末まで)。2019年4月より第4期給付金申請の受付開始。



3-11甲状腺がん子ども基金
3-11 Fund for Children with Thyroid Cancer

主催: 日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ、協力: かたつむりの会
お問い合わせ先: 放射能問題支援対策室いずみ

☎/FAX 022-796-5272 (平日10~16時) E-mail izumi@tohoku.uccj.jp





2011年3月11日の東京電力福島第一原子力発電所事故から8年が過ぎました。第二次大戦後、最大で未曾有の公害被害をもたらした放射能汚染は現在も続き、汚染された環境が元に戻るには非常に長い年月が必要です。今も、多くの人々が避難生活を続け、一方では、震災前より高い放射線量が測定される環境下での営み。ある日突然、夥しい人々の運命を変え、変わり果ててしまった事故後の世界において、私たちはこの事故影響に向き合い、子どもたちをはじめとするいのちを最優先する社会への転換を歩んでいるのでしょうか。

2011年秋以降、福島県は、事故当時、県内に在住していた18才以下の子どもたちの甲状腺検査を実施。これまで少なくとも206名もの甲状腺がん（疑い含む）の子どもたちが確認され、核（原発）事故由来かどうかの検討や分析が続けられています（2018年12月末時点）。

事故後、宮城県内においては、広範な住民から子どもたちや妊産婦への健康調査を求める強い要望があったにもかかわらず、県は放射能に関する健康調査を行いませんでした（独自に町内の子どもたちの甲状腺検査を実施している丸森町を除く）。

会では、2013年12月以降、宮城県内でのべ三千名以上の甲状腺検査を民間で実施している「放射能問題支援対策室いずみ」による2018年度検査結果報告や基金による活動報告等、および、検査活動とともに取組む県内各地団体や独自に検査活動を行っている団体などの意見交換・交流会を実施します。

低線量被ばくによる晩発的な健康影響が懸念される子どもたちや未来世代のためにできることを一緒に考えていくためには是非ご参加下さい。関心ある方ならどなたでもご参加できます。



会場のご案内

東北教区センター「エマオ」

仙台市青葉区錦町一丁目十三の六

仙台駅・地下鉄南北線勾当台公園駅から徒歩十三〜十四分程度
公共交通機関のご利用をお願いいたします。近隣有料駐車場有。
託児はございませんが、会場にお子さまスペースがあります。
どうぞご利用ください（和室）。